

芸術ニュースは世界へ発信するワールド・ステージ

週刊 芸術新聞

発行 アグリーシステム 週刊芸術新聞編集部
 本社：千葉県茂原市渋谷1016-12 agree@green.ocn.ne.jp
 支局：神奈川県小田原市東町1-8-18
 ashigara.shinbun@nifty.com

あしがら新聞 インターネット版

あしがらネット

あしがらエリアのニュースを
いち早く提供！
<http://ashigaranet.com/>

美しき展覧会
からスタート

年頭から美しき展覧会から始めましょう。19世紀後半の英国を席巻した壮大なムーブメント「日本初の唯美主義展」。

あけましておめでと〜い〜

今年も「週刊芸術新聞」をよろしく！

あけましておめでと〜い〜
 ございます。

2014年もすでに一ヶ月の半分が経過してしまいましたが、「週刊芸術新聞」は2014年最初の発行となり、美術関係者はじめ、多くの読者の皆様方のご支援を頂き、今年で14年目を迎えることとなりました。

主義がはびこるなか、人々のライフスタイルをも変革した先進的な芸術運動が起こった。主導したのは前衛芸術家たち。芸術はただ美しくあるために存在すべきだとする彼らの信念は、革新的な美術とデザインを生み出す。

芸術と人生のどちらにも美が重要とする芸術至上主義は、一般家庭のインテリアに変革をもたらすとともに、デカダンスの世紀末芸術へと発展していく。

本展は、ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館などの英国の主要な美術館・博物館の所蔵品を中心とする絵画、素描、家具、工芸、宝飾品約150点で構成される。
 D・G・ロセッティから

これもひとえに関係者の熱いご支援と読者の皆様方の後押しがなければ成り立たないことで、本当に感謝の気持ちでいっぱいとなっております。

今年は今更なる飛躍を目指し、独自となる内容の濃い紙面づくりに邁進したいと思っております。



アルバート・ムア、オーブリー・ビアズリー、オスカー・ワイルドにいたるまで、前衛たちが追い求めた独創的な美と悦楽の世界を繰り広げる。

メモ 2014年
 1月30日(木)
 5月6日(火・祝)
 ■三菱一号館美術館(東)

本号から4ページ紙面から6ページに増ページすることになりました。これは全国の美術館・博物館からの展示資料が送られてきて、全てが紙面に反映出来ない現状に陥り、関係部門に申し訳ない状態が続いていました。できるだけご希望に応じ、紙面をキメ細かく収めていく所存でおりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

編集部

次号は
1月30日発行

京都千代田区丸の内2-6-12 TEL 03-5777-8600 (ハローダイヤル) 一般1600円
 高・大学生1000円
 小・中学生500円
 毎週月曜日休館

熱海湾を一望で
 き、眺望ナンバー
 ワンの美術館

■MOA美術館(静岡県熱海市桃山町26-1) 電話0557(84)2511 一般1600円、高校生800円、中学生以下無料、65歳以上1200円
 木曜日休(祝日は開館)
 JR熱海駅下車/バス4番のりばMOA美術館行8分

版画でみる20世紀展
 ピカソからウオーホルまで
 開催中！

■諸橋近代美術館(福島県耶麻郡北塩原村大字松原字剣ヶ峰1093番23) 一般・大学生950円、高校生500円、小・中学生200円*毎週土曜日、小・中学生は無料
 電話0241(37)1088



生誕140年記念 下村観山展

下村観山（しもむらかんざん）〔明治6年（1873）？昭和5年（1930）〕は、紀州徳川家に代々仕える能楽師の家に生まれた。幼い頃から狩野芳崖（かのうほうがい）や橋本雅邦（はしもとがほう）に師事して狩野派の描法を身につけ、明治22年（1889）に東京美術学校に第1期生として入学し、同期の横山大観や1年後輩の菱田春草（ひしだしゆんそう）らとともに、校長の岡倉天心（おかくらてんしん）の薫陶を受けた。卒業後は同校の助教となるが、天心を排斥する美術学校騒動を機に辞職、日

本美術院の創立に参画し、その後は日本美術院を代表する画家の一人として、新しい絵画の創造に力を尽くしたことで知られる。大正2年（1913）には実業家・原三溪（はらさんけい）の招きにより、横浜の本牧に終（つい）の棲家（すみか）となる居を構え、横浜ゆかりの画家となる。狩野派の厳格な様式に基礎を置きながら、やまと絵の流麗な線描と色彩を熱心に研究し、さらにイギリス留学および欧州巡見による西洋画研究の成果を加味し、気品ある独自の穏やかな画風を確立した観山。本

メモ 2014年2月11日（火）
横浜美術館（神奈川県横浜市西区みなとみらい三丁目4番1号）TEL 045-2221-0300
一般1200円 大学・高校生800円 中学生400円 毎週木曜日

展では生誕140年を記念し、十代の狩野派修行期から、円熟した画技を示した再興日本美術院時代まで、代表作を含む作品・資料約150件（展示替えあり）により、画業の全容を紹介している。



ターナー展 英国最高の風景画家

風景画の可能性と、英国絵画の地位を飛躍的に高めたターナーは、その生涯を通じて自身の絵画表現を追求し続ける求道者。本展は、世界最大のコレクションを誇るロンドンのテート美術館から、油彩画の名品30点以上に加え、水彩画、スケッチブックなど計約110点を展示し、その栄光の軌跡をたどる。

ここでは、5つのテーマを切り口にして、ターナーの人生と作品の魅力について紹介していく。ターナーの画家としての出発点は、英国各地の名所旧跡の風景を描く水彩画家。交通の整備が進んだ18世紀以降の英国では、裕福な人々の間で旅行が盛んになり、名所を描いた絵が人気を博していた。ターナーも、10代半ば過ぎからたびたび国内旅行に出かけ、中世の城や廃墟、起伏に富んだ自然の景観など「絵になる風景」を探し出して描いていた。20代になるころに

は、この分野で十分な収入を得られるようになってしたが、さらに油彩画にも手を広げ、単に風光明媚な風景を超えて、自然の持つ壮大さを描くようになった。

メモ 2014年1月11日（土）
4月6日（日）
◆神戸市立博物館（神戸市中央区京町24番地）TEL 078-3391-0035 一般1500円 大学・高校生1100円 中学・小学生600円 月曜日休館

<http://www.rekihaku.ac.jp/>

東日本大震災では、国立歴史民俗博物館のある千葉県でも多くの被害が出ました。被害を風化させないために、千葉県内の記録写真を公募しています。2014年2月14日（金）まで。詳細は歴博のホームページでご確認してください。

東日本大震災での千葉県内の記録写真真公募

日本の歴史・文化の流れの中から論点を絞ったテーマを選ぶ展示

国立歴史民俗博物館（千葉県佐倉市城内町117）電話03（5777）8600
ハローダイヤル 一般420円、高校・大学生250円、中学生以下は無料 月曜日休

着物、帯、のれん、屏風、額絵、絵本など多岐にわたる

静岡市立芹沢銑介美術館（静岡市駿河区登呂5の10の5）電話054（282）5522 一般410円、高大生250円、月曜日休

庭園ゾーン 書院ゾーン 体験ゾーン 展示ゾーン

北九州市立小倉城庭園（北九州市小倉北区城内1の2）電話093（582）2747 会期中無休



●紅白梅図屏風 尾形光琳画（図1）

国宝「紅白梅図屏風」 と所蔵名品展

2014年1月31日（金）
～3月12日（水）

⇒MOA美術館情報



広重 東海道五十三次

1月1日（水・祝）～1月29日（水）

新春特別企画として、江戸時代後期の絵師・歌川広重を取り上げ、彼の名を一躍有名にした代表作、「東海道五十三次」を展観。
江戸と京都をむすぶ東海道は、江戸時代に本格的に整備が進み、参勤交代の大名行列や特産品を取り扱う

商人、寺社巡礼の庶民などが行き来し、大変な賑わいをみせた。
広重の「東海道五十三次」には、豊かな自然の中を旅する人々の姿や、街道で働く人々の様子がいきいきと表現されている。
本展では、いくつかある

「東海道五十三次」のうち最初に制作された保永堂版全55枚を中心に、その後制作された行書版及び隷書版の一部も紹介する。新春のひとつとき、日本人の心情に訴える抒情性豊かな広重「東海道五十三次」を堪能できる。

メモ

◆2014年
1月1日（水・祝）～1月29日（水）

◆MOA美術館（静岡県熱海市桃山町26-2）TEL 0557-84-2511 一般1600円 高校生・大学生800円 シニア（満65歳以上）1200円 中学生以下無料 毎週木曜日（祝日の場合開館）

この春、熱海市のシテイブプロモーションのテーマ「梅と桜」にあわせ、MOA美術館では、国宝「紅白梅図屏風」をはじめとするMOA美術館コレクションの優品より精選した名品展を開催。
国宝「紅白梅図屏風」は、江戸時代中期の画家、尾形光琳の最晩年期の一大傑作であり、後世の絵画・工芸表現に多大な影響を与えた日本美術を代表する作品。
対立して勇姿を競う紅白の梅、まるで判を押したかのように粹どりの花弁と蕾がリズムカルに小枝をつたって息吹く花の旋律に、早春のまだ寒さが残る空気を感じさせ、絵に季節感を与えている。
中央の川は静かに流れ、

光琳独特の絶妙な筆致により渦まき水文が、観るひとの目を引き付け、さらに末広がりの川全体を包む黒い面が絵に存在感を与えている。この流水文の絵画表現は、近年の科学調査により、銀箔地に水文をマスキングし、周囲の銀を黒色に硫化変色させるという極めて類のない工芸的な手法である事が判明した。呉服商「雁金屋」の御曹司だった光琳は染色技法に親しく、本作品の金銀地に對して防染技術の試みを垣間見せる大変興味深い作例。江戸初期の本阿弥光悦・俵屋宗達から発した琳派芸術が醸成され、元禄文化の中で花開いた光琳の真骨頂としての傑作といえる。
本展では、この他に京焼

の大成者・野々村仁清作の国宝「色絵藤花文茶壺」、奈良から室町期までの古筆名蹟の集大成といえる国宝手鑑「翰墨城」をはじめ、奈良時代一木造の重文「聖観音菩薩立像」などの仏教美術、重文「樹下美人図」や重文「佐竹本三十六歌仙切 平兼盛像」などの中国・日本絵画、重文「山水人物蒔絵手箱」等の漆工芸など伝統に培われた香り高い東洋美術の精華を展観できる。

Ⅱ 関連イベントⅡ

期間中の毎週土曜日の午後1時30分～約30分、学芸員によるスライドレクチャーが能楽堂で開催される。料金は無料なので、ぜひ参加してみては…。

日本の春”梅と桜”鑑賞するために庭園を無料開放！

今年は何年より寒さが厳しい日々が続いていますが、熱海市では梅がチラホラ咲き始めてきていて、熱海市や熱海湾を見下ろすこの庭園から、美術館の展示会のほかに、気分爽快を満喫できることで有名となっている。

静岡県・熱海市と云えば”梅”の名所として広く全国的に知られていることはご存じだと思われます。

MOA美術館

は熱海市の高台にあり、見晴らし満点なその庭園を無料開放して、多くの方々に満喫して欲しいということ
で、限定期間ながら1月1日から4月9日まで、”梅と桜”のシーズン誰でも楽しめるサービスを提供している。

特集

ホキ美術館 3 周年記念 第一回 ホキ美術館大賞展

日本を代表する写実作家14名

ホキ美術館開館では、写実絵画の発展と若手写実画家の育成・発掘のために、2011年11月に「第1回ホキ美術館大賞」を制定し、50—100号と10—40号の2種類のサイズに分けています。

2011年11月19日から2013年7月8日まで公募した第1回ホキ美術館大賞には、全国から86名116点の作品が第1次審査を行い、69点の作品が審査を行い、第2次審査を通過した入選作は50作家56点となった。

大賞は50—100号のサイズの作品から1点、準賞は10—40号のサイズから1点選ばれた。

大賞は1973年生まれ、岡山県の山本誠さんの《4月3日の記憶》、準賞は1984年生まれ、神奈



川県の川原田亜紀子さんの《九十年》。特別館長賞には、1975年生まれ、佐賀県の小木曾誠さんの《巡回する刻の中で》と、1973年生まれ、山崎秋人さんの《曲面と空間(リオマッジョーレ教会)》の2点。入選作56点は、2013年11月15日より2014年5月18日まで半年間にわたって、ギャラリー1に展示している。

なお、ホキ美術館大賞には特別賞もあり、来館者からの人気投票により決定する。2月17日まで投票期間を設け、受賞作品以外の52点の中で最も人気が高かった作品を特別賞となる。

メ

2013年
11月15日(金)

2014年5月18日(日)
◆ホキ美術館 ギャラ

入選者名 と作品名

リー1・8 (千葉県千葉市緑区あすみが丘東3-15)
TEL043-205-1500 一般1800円
高校生・大学生・65歳以上1300円 中学生900円 小学生以下無料(大人1人につき小学生2人まで) 毎週火曜日休館

・山本 誠 「大賞」 「4月3日の記憶」
・川原田 亜紀子 「準賞」 「九十年」
・小木曾 誠 「館長賞」 「巡界する刻の中で」
・山崎 秋人 「館長賞」 「曲面と空間(リオマッジョーレ教会)」
・浅野 真一 「室内のヨーレ教会」
・茅原 佳介 「記憶」
・近山 麻衣 「竹林」
・WU WENC 「沈黙のときめき」
・崔 賢徹 「甥っ子」
・土門 欽治 「宋道湖の夕日」
・福島 尚 「首都圏」
・芳賀 雅之 「日の沈む港」

・芳賀 雅之 「雪間」
・浜地 彩 「つながる想い」
・花光 幸 「アジサイのある静物」
・廣瀬 順子 「寂光」
・細川 慶太郎 「午前12時の虚栄」
・石川 和男 「海風を歩む」
・伊藤 拓哉 「水管橋のある運河」
・伊藤 知秋 「この花が咲き誇るころに」
・亀山 裕昭 「MAN GOKUURA」
・金子 亜紀 「手紙」
・木村 博幸 「無人駅舎」
・岸本 真 「悦(よろこび)」
・児玉 宗平 「6ヶ月」
・黒田 あつ子 「薔薇とレースのある静物」
・前田 俊幸 「静寂の刻」
・前田 俊幸 「燭台と果物のある静物」
・牧原 竜浩 「軒の浦の午後」
・牧原 竜浩 「美術室」
・増川 卓 「その先の未来」
・永見 良子 「青鷲」
・野村 紀子 「なごり」
・大竹 由美子 「川」
・大野 厚嗣 「白虎」
・大澤 美由紀 「気配」

・竜 雅 「刹那」
・斎地 洋子 「ドラゴンフルーツのある静物」
・坂井 華子 「甞」
・下田 浩一 「ほらほら、来てるよ!」
・下地 貴之 「忘れたいのに思い出せない」
・田中 裕子 「吾輩は大である」
・谷川 桐子 「砂利道」
・館山 浩丈 「光の森」
・當間 菜奈子 「星の重さを知る」
・鳥越 一穂 「2013.6.28」
・津田 やよい 「ignore」
・潮田 和也 「サクの肖像」
・潮田 和也 「あの日見た花の名を僕はまだ知らない」
・和佳子 「Still Life V.I.I.I」
・和佳子 「Still Life X」
・若尾 篤志 「untitled」
・山田 堅輔 「いつか誰かが見た景色を想像してみよう」
・山本 誠 「お気に入り場所」
・山安 直志 「寒紅」
・安田 武子 「アトリエ」

2月第一週までの予定

美術館・博物館ガイド

東京都内

●国立新美術館

「未来を担う美術館たち」
16th DOMANI・明日展」
1月26日まで
一般1000円 TEL 03-5777-8600
(ハローダイヤル) 火曜

●国立科学博物館
「砂漠を生き抜く 人間・動物・植物の知恵」
2月9日まで 一般600円
TEL 03-5777-8600
(ハローダイヤル) 火曜

●江戸東京博物館
「東海道五拾三次」
2月2日まで 一般600円
TEL 03-3626-9974 1月27日休館

●三井記念美術館
「楽茶碗と新春の「雪松図」」
1月25日まで
一般1000円 TEL 03-5777-8600
(ハローダイヤル) 月曜

●東京都現代美術館
日休館

「高谷史郎 明るい部屋」
1月19日まで 一般1000円 TEL 03-5777-8600 (ハローダイヤル)

●東京都写真美術館

「植田正治とジャック・アンリ・ラル・テイク」
1月26日まで 一般700円 TEL 03-3280-0099 月曜日休館

●世田谷美術館

「実験工房展 戦後芸術を切り拓く」
1月26日まで 一般1000円 TEL 03-3415-6011 月曜日休館

東京郊外

●青梅市立美術館

「版画の底力 木版編」
1月19日まで 一般200円 TEL 0428-24-1195

●八王子市夢美術館

「前田寛治と小島善太郎」
2月2日まで 一般500円 TEL 042-621-6777 月曜日休館

関東北部

●水戸芸術館現代ギャラリー

「ダレン・アーモンド 追考」
2月2日まで 一般800円 TEL 02-9-227-8111 月曜日休館

●うらわ美術館

「アートの絵本と出会うとき」
1月19日まで 一般600円 TEL 04-8-827-3215

●川越市立美術館

「西洋への憧れ 個のめざめ」
2月11日まで 一般500円 TEL 07-9-228-8080 月曜日休館

●高崎市美術館

「生誕100周年記念 中原淳一展」
1月26日まで 一般600円 TEL 027-324-6125 月曜日休館

●アーツ前橋

「開館記念展 カゼイロノハナ 未来への対話」
1月26日まで 一般800円

0円 TEL 027-230-1144 水曜日休館
●宇都宮美術館
「藤井達吉の全貌 野に咲く工芸 宙を見る絵画」
1月19日まで 一般700円 TEL 028-643-0100

●山梨県立美術館

「動物ものがたり」
1月19日まで 一般1000円 TEL 055-228-3322

関東南部

●横浜美術館

「生誕140年記念 下村観山展」
2月11日まで 一般1200円 TEL 045-221-0300 木曜日休館

●茅ヶ崎市美術館

「臼井恵之輔展 未来形絵画を」
2月2日まで 一般300円 TEL 0467-88-1177

●国立歴史民俗博物館

「午年の馬」
1月19日まで 一般420円 TEL 03-5777-8600 (ハローダイヤル)

●千葉市美術館

「川瀬巴水展 郷愁の日本風景」
1月19日まで 一般1000円 TEL 043-221-2311

無休

●静岡県立美術館

「静岡県立美術館所蔵 二見彰一展」
1月19日まで 一般600円 TEL 054-263-5755

中部近畿

●愛知県美術館

「アイチのチカラ! 戦後愛知のアート、70年のあゆみ」
2月2日まで 一般500円 TEL 052-971-5511 月曜日休館

●尾道市立美術館

「新星館コレクション 須田剋太展」
1月26日まで 一般700円 TEL 0848-23-2281 月曜日休館

●広島市現代美術館

「フランス・アリス展」
1月26日まで 一般1000円 TEL 082-264-1121 月曜日休館

●美術館・博物館名

開催中展示 最終開催日
一般入場料 美術館電話
番号 休館日

ルネ・ラリックの生涯と出会う

■箱根ラリック美術館 (神奈川県足柄下郡箱根町仙石原186番1) 電話0460-(84)2255 一般1500円、大学生・高校生・シニア(65歳以上)1300円、中学生・小学生800円 年中無休

からくり人形など関係資料多数展示中!

■江戸民具街道 (神奈川県足柄上郡中井町久所418) 電話0465-(81)5339 月曜日休館

箱根の景観と当館の自慢のスイーツをお楽しみ下さい

■箱根写真美術館 (神奈川県足柄下郡箱根町強羅1300の432) 電話0460-(82)2717 一般500円 火曜日休 毎週土曜日は夜5時までオープン

Art Topics



芝原人形を通じて

千葉惣次先生講演会 「学びの日」第一回

たまあーと創作工房・わっくわっく共同企画

芝原人形は東京浅草の今戸人形を元に、明治初期（1868—1881年）から長南町芝原で作り続けられている。陶芸を学んだ千葉惣次氏は一時途絶えた芝原人形を復元し四代目を継承している。粘土板を人形型に入れ成形し、乾燥、素焼きし、胡粉をかけ、泥絵具で彩色する。素朴な味わいのある郷土人形として知られている。現在も縁起物として、または三月、五月の節

箱根写真美術館 展覧会情報ほか



●2013年12月11日（水）～2014年2月17日（月）
『富士に出逢える美術館』
富士山世界文化遺産登録記念、遠藤桂 富士山写真展
その2 写真家・遠藤桂

が撮り続ける日本の名峰・富士。企画展示室では、パリで発表を続けたハッセルブラッドカメラで撮影したシリーズを展示します。

当館企画展のお知らせ
は下記ホームページをご覧ください。
http://www.hmpop.com/monthly2.html
併設カフェPlaisir
de l'oeuvre

（プレジール・ドウ・ルフ）から季節便り

「冬のあったかメニュー」

●シヨクラ・シヨール ¥5500
仏・ヴァローナ社の

チョコレートとミルクに煮溶かした贅沢濃厚なチョコレートドリンクです。

●ヴァン・シヨール 1500yen（2杯）
心も体も暖まる甘い冬限定ホットワインです。赤ワインに柑橘系フルーツとシナモ

ンなどスパイスをブレンドした、アルザス地方のルセットで作りました。

《季節のおすすめデザート》

◆シヨクラ・イヴェール ¥400
ラム漬けのイチジクとシヨクラを焼きこんだ、冬のケーキ。

◆シヨクラ ¥500
パリのビストロやサロン・ド・テで定番人気のチョコレートケーキ。フランス・ヴァローナ社のシヨクラを

海側へ徒歩三分。

●対象 高校生～一般の方

●定員 60名

●受講費 1500円

●チケット販売&申し込み問い合わせ先

■たまあーと創作工房TEL & FAX 0475-613

わっく（山辺）TEL 080-3

たまたまメール tamaart@earth.ocn.ne.jp

わっくわっくメール ayapon_kuri@ybb.ne.jp

283-3014

080-3

2717

●箱根写真美術館（神奈川県足柄下郡箱根町強羅1300-432）TEL & FAX 0460-821

写真はwebにてご覧ください。http://www.hmpop.com/cafe-menu.html

※只今の季節、キッシュはご予約にて承っております。

＜くお食事メニュー＞

●塩豚のお野菜たっぷりポトフ ¥1200
冬の定番、ポトフ。バターライスを添えて。

限定